



Tokoton

R8.9.14

保護者の皆様への一度きりのお便り 千葉 潤

石ころ

「石」

- 「石」と聞いてどのような印象をお持ちになりますか。

「石の上にも3年」

「焼け石に水」

「雨だれ石を穿(うが)つ」

「石も磨けば玉となる」

「玉石混交」

「石」にまつわる言葉を拾ってみても、「石」は、常に脇役です。

おまけに、「石ころ」なんて「__ころ」がつくと、一層、ネガティブな印象です。

さらに、お日様に当たると温まり、水につけると冷たくなり、車のタイヤに引っ掛けられたときや、人間様に蹴とばされたときくらいしか、「石ころ」自身の存在を確かめられないのです。

「石ころ」は不幸でしょうか。

ポケットいっぱいの「石ころ」

- ポケットをパンパンに膨らませて、外遊びから帰って来た子がいます。

何が入っているか聞いてみると、自慢げに、「石ころ」を見せてくれました。

“出るわ出るわ”次から次と顔を出します。手のひらいっぱいです。

そりゃ、得意そうな顔をしたわけが分かります。

そのひとつ、青いのが一番のお気に入りなのだそうです。

さて、この「石ころ」、どうしましょうか。

正解じゃなくて最善

- アニメ「おさるのジョージ」。

紹介するまでもなく、ジョージは、とにかく好奇心旺盛です。

その結果、周囲を巻き込むトラブルに発展するのですが、黄色い帽子のおじさんはじめ周囲に支えられながら、試行錯誤の結果、トラブルを好転させます。

周囲の大人は、ジョージに正解を与えるのではなく、その場その時の最善を見出す努力を一緒にするのです。

理想の姿



- ジョージの周囲では誰一人としてジョージを否定することはありません。

なかでも一番の理解者は、黄色い帽子のおじさんです。

突飛な行動にあきれてしまうことはあっても、ありのままを受け入れるのです。

幼児教育の理想の姿が重なります。

とことんスタイル

- あの「石ころ」も、子どもの手に係ると180度、その姿を変えてしまいます。

「汚いから捨ててきなさい」というのは簡単ですが、その「石ころ」をどうやってその子の最善に導いていくか、そこが、とことんの保育者の腕の見せ所です。

その過程こそが、わたしたちの“とことんスタイル”なのです。

- ☒ 転勤などで何度も立場を新たにしながら子どもの教育に携わり、最後に幼児教育にたどり着きました。これまでにない経験をさせていただきました。感謝申し上げます。(千葉 潤)